

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

| | | | |
|----------------|--------------|-----|--------------|
| ○事業所名 | いきるちから3 | | |
| ○保護者評価実施期間 | 2025年 2月 13日 | | 2025年 2月 28日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 35名 | (回答者数) 32名 |
| ○従業者評価実施期間 | 2025年 3月 3日 | | 2025年 3月 7日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 9名 | (回答者数) 9名 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2025年 3月 14日 | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|---|--|---|
| 1 | 子ども一人ずつの課題に向き合い、関わる時間を大切に、保護者様にも丁寧に日々のご様子を報告している。 | 子どもが自由遊びに使う「おしごと」のバリエーションを増やしたり、集団レクリエーションをアレンジして難易度を変化させたり、子どもが楽しみ、自信を持つことで向上する力を伸ばそうと意識している。 保護者様の思いをくみ取り寄り添うよう努めながら、今までお伝えすることを遠慮していた事柄（保護者様の意識改革のご提案）もお伝えすることで信頼関係を築いている。 | 将来の自立に向けて、一人一人の個性が長所となったり短所となったりすることを鑑み、今必要な事と、長い目で対応が必要なことを見極めてサポートしていきたい。 スタッフの持つ価値観や思いを強みに変えて、より良い支援に繋がってきたい。 |
| 2 | チームワークがとれているため、協力や段取りやそれぞれの役割を話し合う場面が自然と生まれている。 | 日々支援の合間に報告・連絡・相談を意識している。 勤務時間が異なるスタッフにも情報共有が行き届くように意識している。 | 業務内容を周知し全員が全ての業務の流れを理解し経験を積み重ねていくことでさらに向上すると思われる。 |
| 3 | | | |

| | 事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|--|---|
| 1 | 地域の交流が少ない。 | 年に一回の交流は継続的に出来ているが、定期的に交流を図ることが難しい。 イベントになると先方と予定を合わせる事が難しいと感じることがある。 | 地域活動の情報収集に力を入れていく。 イベントのみの交流ではなく、日頃から関わりが持てる関係性を築いていく。 |
| 2 | ペアレントトレーニングの取り組みや保護者参加型のイベントが少ない。 | 面談時に個々の相談援助はできているが、本格的なペアレントトレーニングは実施できていない。 家族参加型のイベントの実施はあるが定期的には行えておらず、開催の頻度が低い。 | ペアレントトレーニングの研修を受講し、知識を身につける。 家族参加型のイベントの実施回数を増やし、交流の機会を増やしていく。 |
| 3 | | | |